

田園環境の

# 害虫・益虫生態図鑑

## Guide to Pest Arthropods and Beneficials in Japanese Field

編集 江村 薫／久保田 栄／平井一男

北 隆 館

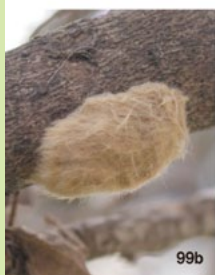
田園環境に見られる害虫 340種と益虫 114種をさまざまな生態写真で図説。全体を害虫編と益虫編に分け構成している。本書での“害虫”とは原則として農業分野で被害を及ぼす昆虫などの小動物を指す。また、身近な農地や緑地での生態系保全の視点から残したい代表的な生きものたちや、害虫を抑制する天敵類を含めた全体を“益虫”と位置づけた。B5判、420頁。

定価 15,000 円  
(本体 14,286 円 + 税 5%)

99. チャドクガ



99a



99b



99c



99d

100. マメドクガ



100a

172. フタスジヒメハムシ



172a



172b



172c



172d

173. ブタクサハムシ



173a

308. アシノワハダニ



308

309. ナミハダニ



309a



309b



309c

# 田園環境の害虫・益虫生態図鑑

Guide to Pest Arthropods and Beneficials in Japanese Field

# 新刊

定価 15,000 円  
(本体 14,286 円 + 税 5%)

北隆館

カメムシ目 Hemiptera (アブラムシ科 226 ~ 227)

身近な生態系で保全したい生き物



## 226. ネギアブラムシ

*Neotiscoptera formosana*  
 onion aphid / 台湾葱蚜、葱蚜

生態：本州・九州、台湾、中国、北米に分布。寒冷地では卵で越冬すると思われるが、詳しい発生経過は不明。初夏と秋に発生が多くくなる。

形態：無翅胎生雌虫は体長 1.8 mm、色は黒褐色。有翅虫の翅脈は黒く縁だらけのため太く見える。

被害：ネギ、タマネギ、ニラに集団で寄生し、吸汁加害する。多発すると成長を阻害する。またネギ萎縮病を媒介する。対策：発生初期に有機リン剤、物理的阻害剤を散布する。



## 227. ナシミドリオオアブラムシ

*Nippolachnus piri*  
 pear green aphid / 梨大緑蚜

生態：北海道～九州、極東に分布。ナシの葉にコロニーをつくる吸汁性害虫。越冬は卵で、ナナカマドなどに産卵された卵で行われ、5～6月に有翅成虫がナシに飛来し、産卵して無翅のコロニーを形成する。その他、クリ、シャクナゲ、シラカバ、リンゴなどが寄主植物として知られている。コロニーを形成する無翅個体は、葉裏の葉脈に沿って、規則正しく頭を向けた状態で口針を刺して吸汁する。年間7～10世代を経過し、最盛期は7～8月。秋になると越冬寄主植物に移動する。

形態：無翅成虫の体長は3mm内外。体色は透き通った淡緑色。胸、腹部の背面に3本の緑色の長紋がある。脚は細長い。

▶ 226a. ネギアブラムシ有翅胎生雌虫 / 226b. 無翅胎生雌虫 / 226c. コロニー (ネギ) / 226d. ネギ被害 ▶ 227a. ナシミドリオオアブラムシ有翅成虫と無翅幼虫のコロニーの初期



## 節足動物門クモ綱クモ目 (カニグモ科)

### ハナグモ

*Misamenops tricuspidatus*

crab spider / 三突花蟹蛛

形態：雄約 6 mm、雌 3～4 mm。幼体は全身緑色、成体は腹背に褐色の斑紋が見られる。雄成体は頭胸部および脚は赤褐色で、腹部の中央付近が褐色になるが、雌では頭胸部、脚は緑色で腹部は白っぽい。

生態：日本全土を含め世界各地に分布。ハナグモが属するカニグモ科 *Thomisidae* は世界で 2,000 種、日本では 62 種が知られる。菜園や農地にはカニグモ科、ハナグモ属、ワカハグモ属、アズナグモ属、カザミグモ属などがある。多くは花や葉の上で待機し、近寄る昆虫を捕食する待ち伏せ型の捕食者である。農地や菜園には本種が多く、ハエ、コウチュウ、ガガン、イトトンボ、チョウなどを捕食する。農地や菜園の保全対象生物候補に挙げられる。



### カラカニグモ

*Nysticus ephippilatus*

crab spider / 椀型花蟹蛛

形態：カニグモ属の中で最大。雄成体は 9～11 mm、雌成体は 6～7 mm。カニグモ属は形態・色彩・斑紋がよく似ているので雌の外縁部や雄の触肢の形態・構造により識別することが必要。

生態：日本全土、ロシア東部、中央アジア、モンゴル、朝鮮半島、



内容見本 67% に縮小

[害虫編：見本頁]

[益虫編：見本頁]

### 本書の特徴

害虫編は、幼虫と成虫の写真掲載を基本とし、卵や蛹、繭、被害写真を加え、解説文は原則として「生態」「形態」「被害」「対策」の項目に分けた。とくに「被害」ではその発生の仕方を知り、「対策」では害虫の被害を防ぐことを念頭に記述した。「対策」の項における農薬・薬剤名は有効成分の系統名を主体とし、一部には有効成分と剤型を簡潔に示した。また、本書を参考に害虫の生活を理解し、生産現場や家庭の花や庭木、菜園での診断と防除、さらに益虫編を踏まえ、そこで活躍する天敵生物や保全したい小動物などの生きものの相互作用、生態系全体を含めての防除のあり方などを考える手助けとなる構成とした。

【掲載種】害虫：昆虫 8 目 300 種、ダニ 1 目 26 種、軟体動物 2 目 4 種、線虫 2 目 10 種。益虫：昆虫 8 目 77 種、クモ 1 目 30 種、その他 4 目 7 種。

B5 判・総頁数 420 頁  
上製本・函入 / 害虫名、益虫名、学名、英名、植物名索引付

【この商品に関するお問い合わせ先】  
株式会社 北隆館 営業部  
〒108-0074 東京都港区高輪 3-8-14

Tel. 03-5449-4591 / Fax. 03-5449-4950  
URL: <http://www.hokuryukan-ns.co.jp>  
e-mail: [hk-ns2@hokuryukan-ns.co.jp](mailto:hk-ns2@hokuryukan-ns.co.jp)

申込書	田園環境の 害虫・益虫生態図鑑 を申し込みます		北隆館	書店名
	ISBN978-4-8326-0840-5 C0645 ¥14286E (注文数)		冊)	
	ご住所 (〒 — ) お電話 ( — )			
お名前		e-mail		